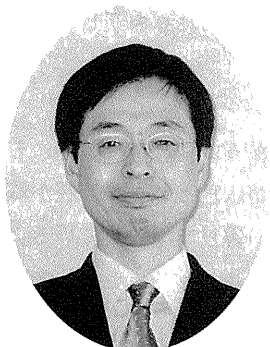


ずいそう



素人による天才の疑似体験

安 陪 和 雄

わたしと鍵盤楽器のつき合いは、途中ブランクが多々あるものの延べ20年以上になります。年数だけは自慢できるものの、練習量が極端に少ない（才能が全くないと言ったほうが正しいかもしれません）ため、腕の方は相変わらず殆ど向上していません。このため、「趣味は？」と人に聞かれると、「下手の横好きですが」と必ず前置きをした上で、「ピアノです」と若干照れながら答えています。

楽器には、ピアノに代表される鍵盤楽器だけでなく、例えば、ジャズ分野では、サクソ、トランペット、ギター、ベース、ドラム等、があります。勿論、誰かが何か楽器をやるからには、その人が音楽好きであることはいまでもないので、だからといって、楽器であれば何でもいいというわけではありません。

私なりに、鍵盤楽器の最大の魅力は、幅広い音域を対象に10本の指で自由自在に音楽を奏でることができるということに尽きるのではないかと考えています。

このため、所謂、88鍵のピアノで交響曲を奏することも可能です（勿論、自分の能力ではそんな高度なことはできません）。サクソ、トランペット、ベース、ドラムといった楽器は一人で演奏しても音楽にはなりません（勿論、例外はあります）。ギターはその意味でピアノに近いのかもしれませんが、たぶん、私とは縁が薄かったのでしょう。

音楽好きな方であれば、CD等を聞いて、ものすごく感動した経験は一度ならずあると思います。そして、それを自分で演奏できたらいいだろうなあと考えたことはありませんか。私が鍵盤楽器を弾きたいと強く思った動機はまさにこれ以外の何モノでもありません。

私は基本的に独学ですが、初心者でも、ある一定の条件を満たせば、感動した曲が一般に難度が高いと評価されていても、自分が楽しめる程度（他人に聴かせる程度という意味では決してない）に弾けるようになることは可能だと思っています。逆に、人を感動させる曲は、必然

的に難易度が高くなるもの、とかってに信じています。ですから、子供ならともかく、余暇の少ない皆さん方におかれては、技術をひとつひとつ身につけるために弾いても楽しくない難易度の低い曲からスタートするのではなく、いきなり、本丸に突入したほうが良いと思います。

本丸である原曲の調が、シャープやフラットが多いため、その難易度を多少とも緩和するために、シャープやフラットが最も少ないハ長調に調を移行させた楽譜をたまに見かけますが、このような楽譜は避けるべきです。なぜなら、それぞれの調には、それぞれ独特の雰囲気があり、作曲家は、その調が独自に持っている雰囲気を活かしつつ曲を書いているからです。また、シャープやフラットの多さは、慣れによって結構簡単に克服することができます。

つぎに、お勧めしたいのは、楽譜を覚えることです。こんなことはできるはずはないと思われるかもしれませんが、人間不思議なモノで、騙されたと思ってやってみると、意外と早くオタマジャクシを覚えることができます。なお、プロにとって、暗譜することは、弾くための大前提だと人から聞いたことがあります。これにより、ピアノを実際に弾かなくても、心の中である程度演奏することが可能となります。

このような作業を終えてから、初めてピアノに向かって下さい。かつては、当初何遍弾いても絶対に弾けそうになかった曲が、大分スムーズに弾けるようになるはずですよ。

最終的には、楽譜を見ないで弾けるようになって下さい。そして、自分の耳を頼りに、自分の出す音色を確かめながら弾いて下さい。ここまでくると、相当楽しめるようになっているはずですよ。

1年1曲のペースでも十分立派です。こうして毎年、レパートリーを着実に広げていけば、10年後には、腕も少しずつ上達し、もっともっと鍵盤楽器を楽しむことができるようになると思います。

楽器屋に行けば、音楽の天才が残した偉業を楽譜という形で簡単に手に入れることができます。そして、素人でも天才が楽譜という形で残した感動を楽器演奏により疑似体験することができます。私は、自分で弾いてみる度に、天才作曲家のもの凄さに脱帽しています。

ずぶの素人が偉そうなことを書いて全く恐縮していますが、私のプライベートな喜びを多少とも分かち合えるならと思い、勇気を出して「ずいそう」をまとめてみました。